

【取組内容】 ICT×特別支援教育・インクルーシブ教育についてのオンライン研修

海老沢 穰 氏 によるオンライン研修会の開催

ICTと特別支援教育・インクルーシブ教育の視点について研修を深めるために、一般社団法人SOZO Perspective 代表理事の海老沢穰氏に講師を依頼し、12月に研修会を実施した。

「特別支援教育におけるICTの活用について—子どもたちの長所・強みを引き出すICTの活用について—」と題して、お話していただいた。「学びとは？授業とは？」という根本について、授業そのもののデザインを改めて考え直す示唆を与えてくださった。

また、市内の各校に参加の希望を募り、10校とオンラインをつないで一緒に研修を深めることができた。



— 子どもたちの長所・強みを引き出していくために —

アイデアや表現のツールとしてICTを活用する

ICTで選択肢を広げる

今までの当たり前や前例に捉われず、
柔軟な発想やアプローチを試みる

101



参加者の感想（抜粋）

ICTの研修というと、何をを使うか
Whatや、どのように使うかHowを求めがちですが、やはり、なぜ使うのか？何の目的で使うのか？Whyが大切だと再認識しました。いろいろな情報、アイデア、書籍のご紹介、本当にありがとうございました。

ICTを使い始めて3年、真剣に使い始めて2年になります。子どもたちから教えられることも多々あり、まだ、学びの途中です。最近感じるのは、「デジタルでもアナログでもどちらでもいい」というと、アナログを選択する子供がいます。その子供に合った方法を、こちらから提示する必要性を感じました。まだまだ、どのようなツールとして使えるかを、子どもたちの実態を見てこれから考えていきたいと思っています。

子供たちにとって「自分事」となっていること、当たり前を変えて柔軟な発想やアプローチを試みることなど、特別支援学級で大切なことは普通学級でも大切にしていきたいことだと思いました。ICTを包丁に例えて教えていただいたこともわかりやすくスッキリした気持ちになりました。

ICTを使うということではなく、ICTを使うことで、子供のやる気を引き出すことが一番大事なのだと感じました。

ICTはアウトプットするためのツールであるということ。先生がやりたいことではなく、生徒の自分事になっている学びであるのかを考えながら授業を作っていきたいと思いました。また、生徒が表現するためのツールとして選択肢を増やしていくために、私たちも学んでいかなければならないと思いました。